

ひめじょ通信



発行：第12号(年1回発行)

発行日：2017. 5. 21

広報委員：今村朋子(編集長)・中越利佳
中尾慶子・菊池絹美・秋本美加

発行部数：250部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会
(一社)愛媛助産師会 会長 井伊貴子

事務局：愛媛県松山市中一万2-1

愛媛県助産師会立まつやま助産院内

E mail：ehime@himejyo.jp

ひめじょニュース！ 新理事体制発進

2016年5月に開催された通常総会にて、(一社)愛媛助産師会は井伊貴子新会長のもと理事13名、事務局スタッフ1名という体制で新たなスタートをきりました。そこで今回は、新しくなった「愛媛助産師会」の様々なニュースを皆様にご紹介したいと思います。

4月理事会にてメンバー集合写真

後列：福村・黒田・原田・清家・真田・今村
前列：加藤・伊藤・井伊・植村・田中
(福増理事・蔵本理事は、この日欠席のため残念ながら写真には映っていません)



目次

- * ひめじょニュース 1
- * 研修報告 2~3
- * お産場探訪 4~5
- * イベント報告 6~7
- * ひめじょのお知らせ 8

●井伊会長インタビュー！

就任2年目を迎えられた井伊貴子会長に、愛媛助産師会における抱負を語っていただきました。

「会員の皆さんの積極的な参加を目指した情報発信が一番の課題」

一番は、会員の皆さんに気持ちよくいろんな研修やイベントに積極的に参加してもらえるような会にしていきたいと思っています。そのためには、愛媛助産師会がどんなことをしているのか、情報発信をしていきたいと思っています。

研修会のメール申し込みは定着してきましたが、イベントボランティアも会員の誰もが参加できるよう、今年からひめじょメールで募集するようになっていきました。まだまだ、そこからの申し込みは少ないので課題ですが…。

あとはホームページでの発信を大切にしていきたいと思っています。このこと

は前会長からの課題として引き継いでおり、今年ようやく形になるところまで来ました。

「助産師会の組織の整備が課題」

会員が増え、規模が大きくなるにつれて業務も増えていきます。他県の規模の大きな助産師会のように、様々な業務を明確に分担したり、理事の方以外にも含めた委員会の活動を充実させるなどして、理事の負担も減らしていきたいし、スムーズに運営できるようにしていきたいと思っています。

役割の分担という点では、東予地区・南予地区はイベント開催に向けて活発な活動をしているので、今後はイベントだけでなく研修の企画・運営も各地区で活発に行えるようにしたいと思っています。その点では現在、中予地区は総会の時しか集まることがないので、もう少し中予地区の活動が活発に

●井伊貴子 会長

これまで愛媛助産師会の理事として副会長を務めたのち、平成28年度から会長に就任し、今年が2年目となる。職場では、松山赤十字病院の産婦人科病棟の師長として活躍され、さらに看護協会でも理事として活動されている「超」ご多忙な方。

なれば…と思います。

また、事務局ができたことは大きいですね。総会資料整理や会員管理、発送業務など理事だけでは回らない部分を担当してくれて助かっています。

「平成32年の全国総会に向けて」

3年後の平成32年5月には愛媛で全国総会が開催されます。今からそれに向けて準備をしていくことが大きな課題です。全国になりますから、そこが一番の大仕事ですね。会員の皆さまも、3年後の全国総会に向けて、ご協力をよろしく願います。

NEWS！ 事務局が開設されました！ 毎週金曜日10:00~12:00 まつやま助産院

このたび、まつやま助産院内に愛媛助産師会事務局が設置され、週に1回ですが事務スタッフが常駐してくれることになりました。入会の手続きや各イベントの物品貸し出し、その他、助産師会にご用がある方は、ぜひこの時間帯にお越しください。ひめじょTシャツもこちらでご購入いただけます！

お問い合わせは、☎ 089-945-6757 ✉ アドレス ehime@himejyo.jp までどうぞ

NEWS！ ホームページが開設！ <http://himejyo.jp/> 念願のひめじょホームページがついに開設されました！まだ準備中の部分もありますが、これからさらに情報発信を充実させていく予定です！



●事務局の野上さん

春季研修
Ⅱ-Ⅲ

「医療安全と助産記録」

—産科医療保障制度再発防止についての報告書から学ぶ—

H28.5.17 講師：村上明美先生（神奈川県立保健福祉大学教授）

2015年にアドバンス助産師の認証を受けた愛媛県の助産師は、ひめじょう通信11号でお知らせしたように、就業助産師数の12.0%（37名）でした。今年度もさらに認証を受けられる方が増えるように、愛媛助産師会では認証申請を全面的に支援できる研修内容を企画しています。

その初めとなる春季研修は、産科医療補償制度再発防止委員会の委員でもある村上先生をお迎えし「医療安全と助産記録～産科医療補償制度再発防止に関する報告書から学ぶ～」のテーマで開催しました。再発防止委員会委員として具体的な事例検討の中で提言された事柄を伝えて頂き、安全な医療提供のために、今私たち助産師が何を学ぶべきか、何を成すべきかを学べた研修でした。講演では、「助産記録は仕事をしていることの保証であり、重要ポイントをはずさないことが大切であり、医師

でなく助産師の立場で見たものやそれへの関与について記述し、そこには情報や行為だけでなくアセスメント内容を心がけて書くことが大事である。外部評価では、記録が少ないと助産師の能力が低いと判断される。多い場合は信用され安心できる。」という言葉が印象的でした。そのためには、今後のラダー申請に必要な研修内容や「助産業務ガイドライン」、「産科婦人科診療ガイドライン産科編2014」、「日本版新生児蘇生法ガイドライン2015」、「産科医療補償制度再発防止に関する報告書」等からしっかり学び、力をつけてゆくことが必要であると思いました。今後の学びへの動機づけとなる研修でもありました。

受講された方々のアンケートから、「最新情報が学べました。」「実践的内容で助産記録や日々の記録の重要性を感じました。」「医師と助産師の共通の視点の重要性も良くわかりました。」「自ら考えて行動し責任をもつことが大切だと思いました。日頃からアセスメント能力をアップしてゆくように心がけなければならないと思いました。」等々の反応が寄せられていました。

（松山赤十字看護専門学校：矢野 良子）



Ⅱ-Ⅲ
研修

「助産倫理／助産師教育」

H28.8.7 講師：岡本喜代子先生（公益社団法人日本助産師会 会長）

今回の岡本先生の研修に参加した皆様が寄せてくださった感想には、「倫理といえば難しい、お堅いというイメージだったが、助産師としての自覚や原点に戻るいい機会となった。」「助産師の立場を守り、先を見据えて戦ってくれていた先輩方、岡本先生のお話はとても貴重だった。」等、助産師としての自分を見つめなおす機会となったようです。

さて今回は、研修の感想にとどまらず、日々の思いや研修を通して改めて実感した助産師としての決意を、南予地区長の清家さんが、「孔子」の言葉を交えながらつづってくださいました。（広報委員：今村）

●岡本先生の倫理研修で感じた助産師の姿勢

今回の岡本先生の研修に参加して思い浮かべたことは、孔子の教えにある「一を以て之を貫く」（一貫して変わらずに道を進むこと。柔軟な心と謙虚な態度を持ち、頑固一徹ではなく、調和を計る気持ちがあつてこそ、一つのことが貫くことができる）という助産師の姿勢・態度の教えだと思いました。

人は誰でも「人に対して、倫理的な行動をとりたい」と基本的に考えています。そして、他者にも当然のこととしてそれを求めます。しかし、当然と思われることが実際には那么容易に実践出来ず、諦めたり・シレンマに悩んでいるのが現実です。

以前は助産所でのお産が主流であったことが、現代社会において人々は病院・診療所でのお産となったことが、倫

理が問題視されるようになってきた原因なのでしょうか？助産師も一人一人の顔を見ながら行っていた妊娠～お産・産褥に関する一連の援助が、病院に勤務することによって外来・病棟と分割され、お産の時に初めて産婦さんにお会いするということもありますよね。また、勤務体制・診療介助・日常業務に時間を取られ産婦さんに寄り添い分娩経過をみるのが難しい時もあります。

でも私達は、助産のプロフェッショナルとして宣言しています。自覚を持ち、助産師としての質を保証し、その質（質の高い医学的知識・助産技術）を高めていく努力が必要だということを改めて意識する機会になりました。常に問題意識を持ち、周りに流されることなく、自分の目で見・物事を客観的に冷静に考え・個人としての責任を持たなければいけないと思います。やはり、妊産婦さんとの関わりを経ることが、助産師として成長していく継続の力だと思っています。

孔子は「学びて思わざれば即ちくらし、思いて学ばざればすなわち殆（あやう）し」（学んでも考えなければはっきり理解した状態にはならない。また考えるだけで学ばなければ独断に陥り危険である）とも言います。この教えを忘れず、大好きな助産師の仕事が続けていきたいと思ひます。

（萩山産婦人科：清家 洋子）



スキルアップ
研修

「新生児・乳幼児へのケアのスキルアップ研修」

-子どもの診方～最新のトピックスと知っておきたい基礎知識～

H28.11.13 講師：東出 崇 先生（はぐはぐキッズクリニック院長／太成学院大学看護学部教授）

東出崇先生を講師にお迎えして開催した今回の研修は、助産師だけでなく、県内の看護師、保健師や保育士も参加され、子どもの診方への関心の高さを感じる企画でした。

まず、「妊婦さんが持つ疾患」「循環器」「出生時の外観」「健診や訪問時における多い質問」など各疾患別の診察ポイントを、「母からよくある質問」を例に、写真や動画を使ってわかりやすく説明していただきました。実際に育児相談で質問されることもあるので、よりわかりやすくアドバイスしていきたいと思いました。

最新のトピックスからは、ワクチンとSGA性低身長についてでした。SGA性低身長については、先生からのお願いとして、出生時の身長、体重の計測、母子健康手帳へ

の記載については、「その子が成長ホルモン療法の治療をできるかどうかを決める大切なものである。少し大げさであるが人生を変えるかもしれないということを認識して」ということでした。今まで以上に正確に計測、記載していくことの重要性を感じました。（助産院emi：田中 恵美子）

母乳G
研修

「災害時の母乳育児支援」

H29.1.15 講師：戸田千先生（坂出市立病院 産婦人科医師／IBCLC）



「災害時だからこそ、母乳♡」「おっぱい先生」こと、戸田千先生をお招きして「災害の母乳育児支援」をテーマに講演していただきました。

今回の戸田先生もロックな衣装で、相棒のぬいぐるみ（HISASIAさん）を片手に戸田ワールド全開で、あっという間の120分でした。

研修後のアンケートでは「災害時のためにも母乳育児が良いと思っていたが研修を受けて様々なことがわかった。お母さんたちにも伝えていけたらいいと思う。」「災害時に助産師としてどのように関わり何をすべきかについて学ぶことができた。」「災害時の母乳育児についてあやふやだった知識の根拠を知ることができた。」「普段の

母乳育児支援が、災害時にも役立つことがたくさんあることを知り、更に母乳育児をすすめていこうと思った。」など参加してよかったという声が多く聞かれました。

母乳を少しでも多く与えることがその子の健康と命を守ること、また、ミルクが必要な場合には安全で適切な調乳で与えられること。それを母親、その家族、周囲の人たちに、伝える役割が助産師にはあることを再認識した1日でした。やっぱり母乳育児っていいですね。

（母乳グループリーダー 県立今治病院：福増 理栄子）

母子
支援

「周産期における母子支援」

-妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア-

H29.2.18 講師：永田雅子 先生（名古屋大学教授/臨床心理士）

今回、講師としてお招きした永田先生は、周産期から乳幼児期を中心にした妊娠・出産をめぐる心理的な諸問題について研究をされています。

一昨年にはブラゼルトン新生児行動評価の理論を用いた医療スタッフ向けの研修用DVDを作成されたということで、その内容を今回の講演内容にも組み込んでいただきました。先生のお話の中で、「この子かわいいね」、「やっぱりお母さんね」、「大丈夫」といった、特に根拠のない太鼓判を周囲が押すことで、母親の育児への自信や愛着形成につながることや、育児は3割程度できていればOKといった内容が印象に残りました。自分の子育て期を振り返り、外出時に見知らぬ人からかけてもらうこれらの言葉に対し、気恥ずかしい反面嬉しくて頑張りようという気持ちが持てたことを思い出すとともに、こういった小さなことが地域での子育て力にもつながっていくのではないかと感じま

した。また、現場においても指導が前面にたつのではなく肯定的な対応が重要であることを再認識しました。

助産師会の研修という助産師や産科医・小児科医などの講師が多いですが、今回臨床心理士である永田先生をお招きすることで、普段の産科領域中心とは違う視点で母子支援を考えるいい機会になったのではないかと思います。また、研修会には助産師、NICU所属Ns、保健師、臨床心理士、カウンセラーといった多職種の参加があったことも今回の研修の特徴でした。今後もより広い視野で物事をとらえていくために様々な領域の方のお話を伺い、自分たちの活動に結び付けることができればと考えています。

（愛媛県立医療技術大学：伊藤 美香）



●誌面の都合上、掲載できませんでしたが、このほかにも、クリニカルリーダーⅢ認証に向けた定番の研修として、県立中央病院の阿部先生、池田先生、松山赤十字病院の近藤先生、妹尾先生、赤羽先生にもお世話になりました。ありがとうございました。

お産場
探訪フリースタイル分娩に
取り組むクリニック！

梅岡レディースクリニック：松山市

お産場探訪の第1弾は、松山市の梅岡レディースクリニックを紹介します。ここでは「助産院のような分娩」ができる施設として、フリースタイル分娩を取り入れ、自然分娩に取り組んでいることが、ホームページにもはっきりと明記されています。私たち助産師の中でも、愛媛県内でフリースタイル分娩に取り組んでいるクリニックといえば、まずこちらの施設の名前があがるのではないのでしょうか？ひめじょう取材班としても以前から、ぜひとも取材を…と熱望していた施設で、今回やっとそれが実現！取材を通して、自然分娩を目指す助産師の方々の実践に感激の広報委員でした。それでは、いざ潜入～！（広報委員：今村朋子）



●取材させていただいた方
助産師 菊池五月 主任 (右)
助産師 秋本美加さん (左)

◆フリースタイル分娩の実際を潜入取材！



●分娩台のLDR

クッション+産綱で
「産みやすい」姿勢をサポート！



まず一番に知っていたのは「実際のどのくらいフリースタイル分娩をしているのか？」ということでした。それは、「フリースタイル分娩」をうたった施設の中には、「どうしてもという時だけ」「〇〇さんが介助する時だけ」といった制限があるなど、実際はあまりされてないなと感ずることも多いからです。そんな私に菊池主任が見せてくださったのは、分娩体位を集計した円グラフでした。こちらの施設では、分娩の体位が一目でわかるよう集計され、自分たちの実践を評価しているそうです。平成28年度のデータで最も多いのは、やはり仰臥位243名(63%)ですが、左右の側臥位が138名(36%)、よつばいや立膝も各1名(0.5%)という

感じで、産婦さんの希望や医療処置の必要度に合わせた体位が選択されているということでした。この数字、実はホームページにも掲載されているからこそ情報が公開できるのだと感じました。

さらに驚いたことに、個々の助産師別の円グラフもありました！助産師それぞれ、得意な体位や苦手な体位があり、知らず知らずのうちに分娩体位を誘導していることがあるため、そのことに気づき、どんな体位でも自信をもって介助できるように自己研鑽するためのデータだそうです。スタッフの秋本さんは、「私はまだ少し苦手意識もあって、このグラフを見るのはドキドキするんです。でも主任のデータをみると、いろんな体位がまんべんなく介助できてるので、すごいと思う」とのこと。施設の方針であるフリースタイル分娩が継続し、定着するよう、日々努力を重ねられていることに感動でした。

◆自然出産を目指した助産ケア

次に私が驚いたことは、助産師による妊娠期のケアが本当に充実していることでした。「うちは、体重管理が難しいって言われます」と菊池主任が

おっしゃるように、妊娠期の保健指導に非常に力を入れており、自然分娩に向けた体づくりをとことん支援していることがわかりました。保健指導項目の詳細はホームページにも掲載されており、助産師が行う保健指導が、このクリニックの重要なケアとして位置付けられていることがわかりますし、妊娠期の関わりへの「本気さ」がうかがえます。そして保健指導だけでなく、様々なクラスも充実しており、マタニティスイミングでは助産師が妊婦さんと一緒にプールにも入るそうです。

また、妊婦にリスクが生じた時だけでなく、過剰な体重増加がみられる時など自然分娩が難しいと予測される場合にも、「クリニックでは限界があることを説明し、設備の整った病院に転院がすすめられることもある」とのこと。保健指導とあわせてリスク管理も徹底されていることがわかります。このことは、基本的に医師一人のクリニックの医療体制の中で、助産師が責任をもって分娩管理をしていくためにはとても重要なことだと思います。妊娠中から「自然分娩」へと導く努力が、何よりも安全への近道なのだという基本に忠実に、丁寧なケアを行っておられる助産師の皆さんの姿勢こそが、まさに「助産院のような」という表現にぴったりだと実感した取材でした。



●畳の部屋でのお産
側臥位分娩を実演！

●一部屋ごとに違う
素敵な入院室



●梅岡レディースクリニック

- *開院 平成17年
 - *年間分娩件数 385件 (H28年)
 - *医師・助産・看護スタッフ
：医師1名・助産師8名・看護師9名
 - *LDR 1室+お産もできる和室
手術室、個室8室、2人部屋1室
- ※数字、写真は平成28年9月取材時のもの

Q：梅岡レディースクリニック

でのやりがいは？

助産師や看護師など、スタッフが研修で学んできた事は、その学びをすぐに活かせるチャンスがあることです。教室開催や妊婦さんに役立つケアなど、いろんな取り組みについて「やってみたら？」と背中を押してくれる院長先生のもとで、新たな事を取り入れていく楽しさを実感しています。

お産場
探訪

都会派のデザインが光る
クリニック！

山内産婦人科：宇和島市

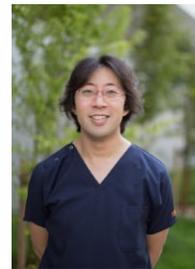
お産婆探訪第2弾は、宇和島市で都会派のデザインが光る山内産婦人科を紹介します！山内正大先生、植村師長さんに取材に応じていただきました。今回、南予の施設初潜入の中尾広報委員でしたが、施設の雰囲気、自然あふれる環境、そこで働く助産師さんたちの様子を知って「宇和島に住んでるなら、今すぐここで働きたい！」を何度も連発した取材でした。

また取材に合わせて、南予助産師会の皆さんと共に、フリースタイルワークショップを開催しましたが、ホールからの雪景色の展望を眺めながら、とても幸せな時間でした。ぜひ、次ページの研修の様子もあわせてご覧ください。（広報委員：中尾慶子）

●取材させていただいた方

院長 山内正大先生

愛媛大学医学部出身、愛媛県立中央病院をはじめ市立八幡浜総合病院、市立宇和島病院他で勤務の後、亡き父の意志を継ぎ、自分が育った宇和島で開業された山内正大先生。取材時は、先生自ら施設を案内してくださり、一つ一つの空間づくりに込められた思いを語っていただきました。今回あたたかな先生のお人柄に触れることができ、感動！の広報委員でした。



◆医療施設として

安全性と快適性を追求



まずお伝えしたいのは、国内外で受賞歴を持つ建築家：松山将勝氏により設計された、安全性と快適性を両立した空間作りを最優先しながら、従来の産婦人科には見られないホスピタリティーの高いクリニックの施設全体のすばらしさです。さらに、光と音響が調和する「特別分娩室」は、設計デザイン：辻村久信氏、音楽：亀山みゆき氏が担当されており、これまでの分娩室の概念とは全く異なるリラックス空間が印象的でした。一段あがった畳のコーナーは、産む人やスタッフの動きを自由にする機能的なスペースで、



「へその緒」をイメージした柱は、産婦さんがにぎってお産に臨める優れものでした。



自然に
赤ちゃんが
するする出てくる
感じがする。
量の雰囲気が
いいなあ。

※写真はブルーの照明の時に撮影

◆コードレス分娩監視装置

産婦が動いても胎児心拍が連続的に記録できるコードレス監視モニター。電源も差し込み場所を取らない工夫がされていました。これなら安心してフリースタイル分娩を介助しやすくなりますね。



◆新生児蘇生も安全に

どの施設にも置かれているインファントウォーマーですが、ここではより部屋の雰囲気の溶け込むことができるように、優しい色合いで独自に作られ、設置されていました。新生児の計測や処置、蘇生をするための医療機器として、児の安全を守りつつ、デザインを損なわない工夫も素敵でした。

Q：山内産婦人科でのやりがいは？

他の業務の片手間ではなく、お産の時は産婦さんにずっとついて、お産に徹することができます。産後もまた、授乳介助など助産師が必要なケアに徹することができます。育児学級を立ち上げたので、1か月健診のあとでもずっとお母さんにつながる。これからの課題は、妊娠初期から関わってさらに妊娠中のケアを充実させていきたいと思っています。



雪景色を広く見渡せるマザーホールここで様々な教室が開催されます。

◆助産師の力を活かす！

山内産婦人科には、助産師外来室や分娩室など、どの部屋も助産師がわくわくするような設備が整っています。これなら助産師が動きやすい！それをもって、見た目に綺麗！フリースタイルに挑戦してみたいと思えばすぐにも出来る環境…。そして助産師が自分のスキルアップをするための後押しをしてくれる理解ある山内先生と植村師長。これぞまさしく助産師が働きたい施設です！助産師が自らの判断やケアをおこない、妊産婦さんにとって優しいお産や育児ができるように、施設の設備が整っているのはもちろんですが、働く助産師が生き生きと活躍できる施設だということを実感しました。



助産師として今までやりたかったことが全部できることがこの一番のやりがいです！

●取材させていただいた方

助産師 植村礼子師長

愛媛助産師会副会長でもある植村さんは、総合病院やクリニックでの経験をもつ、大ベテランの助産師！

●山内産婦人科

- *開院 平成25年
 - *年間分娩件数 259件（H28年）
 - *医師・助産・看護スタッフ
：医師1名・助産師4名・看護師8名
 - *LDR2室（第1分娩室と第2分娩室）
手術室、個室7室、2人部屋2室
- ※数字・写真は平成29年2月取材時のもの

南予 研修 「フリースタイル分娩 ワークショップ」

H29.2.12 講師：ひめつう編集委員 今村朋子・中尾慶子

今回の「お産場探訪」は「フリースタイル分娩」に頑張っており取り組んでおられる素敵な2施設をご紹介しましたが、いかがでしたか？

山内産婦人科の取材時に開催したワークショップは、生き生きと学ぶ助産師の笑顔がいっぱいでした。これをきっかけに、南予でさらに産婦さんにやさしいお産がひろがっていきそうな予感です。(広報：今村)



●フリースタイル分娩ワークショップに参加して

市立宇和島病院：原田恵美

今回この研修会を開催するきっかけは、山内産婦人科でフリースタイル分娩に取り組んでいる植村さんが、スタッフにもフリースタイルの良さを知ってほしい、勉強してほしいという思いからでした。病院スタッフだけではもったいないということで山内先生のご厚意で愛媛助産師会南予地区研修会の開催となりました。

研修会場は、南予にいる私もお邪魔するのは初めてで全面ガラス張りのホテルを思わせるような母親学級の部屋で行われました。地元での研修会ということで14名の会員の参加がありました。講義はとても楽しく、フリースタイルのメリット、デメリット、解剖学的機序に始まり、先生のわかりやすい解説で今一度分娩



- 側臥位分娩で産婦が赤ちゃんを抱きしめる。
- よつばいのお産を、皆が真剣にのぞき込む！

介助を振り返る機会となりました。また4グループに分かれて胎児モデルとリアルパンツと使用して、介助役、母親役になって「側臥位」「四つ這い」での分娩介助をワイワイいいながらそれぞれの手技を確認していきました。また、実際にフリースタイルを実践している助産師の方からアドバイスを受けるなど、あっという間に時間が経ちました。また今村先生にはご自分の出産時の秘蔵映像も見せていただいたり、模型を持ってきていただいたり、有意義な研修をありがとうございました。これを機に南予での研修会を来年度も開催できたらと思っています。

◆アドバンス助産師を活かす！安心・安全、楽なお産とは 四国中央病院：中尾慶子(広報委員)

2015年アドバンス助産師が誕生し、愛媛での助産師の活躍を期待する一方で、この資格を臨床現場で活かせる努力をしている助産師がいるのだろうか？という思いがありました。そんな時、フリースタイル分娩の勉強会を施設内で開催したいという植村師長さんの思いで始まったこの企画に、私も講師の一人として参加しました。ワークショップでは、南予施設で働く助産師の皆さんが、自分の施設のお産について「誰のためのお産？」ということをテーマに、ディスカッションする姿が印象的でした。今回の研修会を通して、アドバンス助産師として私も「産婦さんのため」に施設全体を巻き込んで取り組んでいく役割を果たしていこうと感じました。

南予 イベント

南予さんばフェスタ2016 in 宇和島

H29.1.22 場所：道の駅 みなとオアシスうわじま きさいや広場

今年の「南予さんばフェスタ」は、宇和島のきさいや広場にて、子育て中のパパママを応援するイベントとして開催しました。イベントには南予地区会員13名とボランティアスタッフとして宇和島東高等学校の生徒4名・教員1名の方に参加協力いただきました。

リフレクソロジー、スキンシップ遊び、アロママッサージをしながらの育児相談、高校生による紙芝居 赤ちゃんの足型・写真のプレゼント、妊娠から出産・授乳までの本や写真・模型の展示など、楽しみ満載のイベントでした。

イベント後のアンケートでは、「子どもを預けてゆっく

りできることが少ないので、リフレでゆっくりできてとても気持ちよかった」「授乳の写真やお腹の中の赤ちゃんの様子の人形などが見れてほっこりした気持ちになった。」「足型がとても良い記念になった」「来年もイベントを宇和島でやってほしい」等のご意見を頂きました。

今年から開催場所を宇和島に変更したため、会場の確保や地域へのPR等準備の面でいろいろと大変なこともありましたが、南予地区最大都市での開催だけあって、参加されたお母さんや赤ちゃんもオシャレな方が多く、朝から雨降りだったにもかかわらず、85名という本当にたくさんの方々に遊びに来ていただき、イベントは大成功に終わったように思います。南予地区は会員数も少ないのですが、みんなで協力合せてイベントを楽しむことができ、地域の皆さんから逆に元気をいただいた1日となりました。

来年はさらに参加していただく方に楽しんでもらえるようにと反省会も大いに盛り上がったのでありました…。

(よしもとレディースクリニック：萩原由美)



共催
イベント

「パパママほやほや子育てセミナー」

第1回 H28.9.11 第2回 H29.2.18

場所：男女共同参画センター



毎年、秋と冬の2回開催している「パパママほやほや子育てセミナー」ですが、9月開催のセミナーは、18組のパパとママ(33名)が参加され、大盛況でした！イベント内容は、「産後ママ、育児についてのお話」「ベビーマッサージ」「絵本読み聞かせ、手遊び歌」「夫婦でハンドマッサージ」助産師を囲んでの「ワイワイトーク」など盛りだくさんの内容で、子育て中のパパやママ達と交流を深める事ができ、心とむ1日となりました。セミナーの感想の中

でも「大変ためになった」というパパ。「夫婦で参加できてよかった」というママ。月齢の近い子供を持つ親同士の交流は、同じ悩みや不安を表出し易く、またその場で助産師に質問する等、直接話を聞くことによって「とても参考になった」「様々なアドバイスが聞けて良かった」と嬉しいお言葉も沢山聞く事ができました。助産師としても、とても張り合いを感じられるイベントになったのではないのでしょうか？是非、これからも病院の中だけではなく(地域に戻られた母子の方々のためにも)様々なイベントに参加することで助産師力を上げて行きたいものです。(NTT西日本松山病院：蔵本美奈子)

東予
イベント

東予さんばフェスタ2017 in 新居浜

H29.3.5 場所：マリパーク新居浜



今回で6回目を迎える東予さんばフェスタ。今年はなんと、メインのお産劇に助産学生たちの「ひめじょのタマゴ劇団」が登場してくれました。ストーリーは、皆さんご存知のサザエさん一家に2人目の赤ちゃんが誕生するお話で、安産のコツを楽しく、分かりやすく伝えてくれました。迫真の出産シーンに会場は拍手喝采。ひめじょのたまごたち！お見事でした！春からは皆そろって、めでたく助産師の仲間となりました。(広報：今村)



●タマゴの感想 ～東予さんばフェスタに参加して～

今回、お産劇という形で参加させていただけたことは、私にとってとても貴重な体験になりました。1年間、講義や実習で学んできた知識や技術をもとに、学生が工夫し作り上げたお産劇を助産師の方や妊婦さん、看護学生さんと多方面から見ていただけたことで、新しい気づきや学びを深めるきっかけとなりました。たくさんの方からの意見をいただくことが出来て、これから助産師として働くにあたって、自分の自信につながりました。また、東予さんばフェスタというイベントに初めて参加しましたが、このような助産師が主体となっていくイベントの存在は、地域の母子にとって、心強いものであると実感しました。このようなイベントは、助産師同士や地域関連機関、地域の母子とのつながりを

深める場となっているのだと思います。そのような場に関わることができ、これからの助産師としての働き方の幅を知るきっかけとなりました。ありがとうございました。(愛媛県立助産学専攻科：平成28年度学生 大西由夏)

協賛
イベント

「リフレッシュママクラスinえひめ 2017」

～ありのママが好き！ニコニコママ教室～

H29.1.21-22 場所：愛媛県武道館



愛媛助産師会が協賛している「リフレッシュママクラスinえひめ」に、子育て中のママとして2日間参加させていただきました。自治医大名誉教授の高村寿子先生を講師に迎え、のべ19人の子育て中のママたちが、心のエクササイズ(エンカウンター)とよばれるグループワークを通して、1人の女性として、人として自立して心や自己肯定感を高めるプログラムを体験しました。「ありのママ」というフレーズに惹かれたものの、初対面の方ばかりでどうなっていくのか…最初は少し緊張していました。

ピアネームを決める際、「憧れの人」として浮かんだのは母でした。「きっと理由を説明するだろうな。絶対泣く…」と思いつつ他には浮かばず、案の定説明で泣きました。でも、自分の奥のほうにあった素直な気持ちを聞いてもらえたという安堵感がありました。自己紹介もなくピア

ネームで呼び合うため、最後まで本名も年齢も職業もわからない状態でしたが、それが「ありのまま」の自分を受け止めてくれる仲間に出会いました。一番印象に残っているワークは「大切なもの」です。それから連想する3つの形容詞は、まさに私が、今まで何かを選んだり、決めたりする基準となっていたものだということに気づきました。そして、一人ひとり大切なものの基準は違うということ。「自由すぎる」と思っていた3人の子どもたちも、大切にしていることがそれぞれ違うからなのだと改めて感じました。自分を見つめなおすことができたからこそ、家族一人ひとりと関わりの見つめなおすいい機会となりました。(助産院emi：田中恵美子)

災害対策 「災害対策訓練：安否確認」が86%をこえました！ ひめじょメール登録を確実に！！

毎年、2月の第1火曜日10：00に実施している助産師会の全国一斉安否確認訓練ですが、皆様のご協力のおかげで、**今年は86.6%**となりました。

これまで愛媛助産師会では、災害対策委員会と広報委員会で安否確認訓練に取り組み、ひめじょメールを通じた確認体制を整えてきました。しかし、訓練の返信率が低くても「メールだから仕方ない…」と、あまり気に留めていませんでした。本当に反省です…。ところが、機関誌11月号に掲載された**前年度の全国安否確認率の一覧をみてびっくり66！！なんと愛媛はワースト2**であることを知り、「これではいかん」と災害委員長と広報委員長で作戦を練りました。

とにかくひめじょメール登録率アップを目指して、訓練当日までメール登録のお願いをし、本番では未開封者への再連絡や同じ施設に勤務する助産師からの「あの人みかけました！」情報で安否を確認したり…。ひめじょメールの開封者が一人増えるたびに「会員のみなさんとなつなってる♡」と感じたりミツ

トまでの72時間でした。本当の災害発生時には、この一人一人の開封がその人の「いのちの安全」を示すので、確認できない人がたった一人でも「仕方ない…」では済まされません。他県では、100%は当然で、全員の安否確認ができるまでに何時間かかったか、というスピーディーな連絡体制を整える努力をしているところもあります。こうした安否確認は、まずはじめの最低限の動きであり、実際は、安否を確認したうえで被災している母子のために助産師会としての対応を実施することが求められます。平成28年度の総会では、愛媛助産師会の「災害時支援マニュアル」が配布されましたが、ご覧いただけましたか？勤務助産師の皆さんは病院等での役割もあると思いますが、それぞれの立場でのお互いの動きを明確にし、連携しながら、助産師として災害時の母子や女性の支援に取り組めるよう体制を整えていきましょう！まずは、**平成29年度の訓練は、100%の安否確認を目指します**ので、よろしくお願いします。

(広報委員長：愛媛県立医療技術大学 今村朋子)

行ってみんな犬(けん)！？
愛媛助産師会後援の
おすすめ講演会



●第27回いのちの講演会 ご案内

講演会テーマ：人生は三つの宝探し～ワクワクする話をあなたへ～

講師：水谷もりひと氏 (みやざき中央新聞 編集長)

日時：平成29年6月11日(日)13：30～15：30 (受付13時～)

場所：松山市総合福祉センター大会議室 (松山市若草町8-2)

入場料：前売り1,000円 (当日1200円)、高校生まで無料

連絡先：チケットは、円ブリオえひめ：embryo-38@honey.ocn.ne.jpまで

いつも大きな感動を
届けてくれる
「いのちの講演会」

梅雨のひと時、ワクワクする
話を聞いて心を晴れやかに
してみませんか？



●ウェルカム ひめじょコーナー●

ひめじょへようこそ！ひめつう11号掲載以降に新規入会や他支部より転入された会員の皆さまを紹介します。

◆**中予地区 (10名)** 難波江美佳、吉良麻未、門田恵、高橋悠子、高木叶恵、山本美由紀、名部円、越智万由、楠仁美、上野真紀子

◆**東予地区 (4名)** 前山優子、山下玲子、大西由夏、篠森早葵

◆**南予地区 (2名)** 濱田美和、鷹子知美

*敬称略：H28年度4月以降の転入/入会者から、H29年4月1日現在で手続き中の方まで掲載
施設名などは、総会要綱の名簿にてご確認ください。

●新入会員の皆様 & アドレスが変わった会員の皆様へ ～ひめじょメール登録のお願い～

愛媛助産師会では、**会員専用のひめじょお知らせメール**を運営しています。研修情報を事前に配信しますので、登録しておけば研修の申し込みもラクラク！災害時の安否確認システムとしても重要なツールになりますので登録にご協力ください。

ひめじょ-お知らせ

●登録方法 himejyo-oshirase@mamail.jp にカラメールを送信してください。

*右のQRコードを携帯で読み取ると面倒なアドレス入力が不要です。

*必ずいつもご覧になるアドレスを登録してください。

●携帯の迷惑メール防止機能による削除が多くなっています！

【@mamail.jp】が受信できるよう**再設定**のうえ登録をお願いします！



入会用のQRコードです。
これで簡単に登録してネ！
すでに登録済の人も、
自分の登録状況が
確認できますヨ！



★新入会手続きのご案内

(社)日本助産師会への入会をご希望の方は、以下のいずれかの方法で愛媛助産師会を通じて手続きをなさってください。

- ①研修会の時などに書類と会費を持参する
- ②書類郵送/会費を振り込む(右の連絡先へ)
- ③愛媛助産師会理事に直接渡す

*入会金について：入会手続きを希望される方は、初年度のみ入会金1万円を含む30,000円が必要です。
次年度からは年会費20,000円が自動引き落としになります。
(学生の賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です)

(一社)愛媛助産師会連絡先 **新しく、事務局が連絡先となりました。**

●住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1

愛媛県助産師会立まつやま助産院内

●TEL/FAX：089-945-6757

●Email：ehime@himejyo.jp

●振込先：ゆうちょ銀行 16140-2281641

(口座名義) 日本助産婦会愛媛県支部

★編集後記

平成28年度は役員改選という大きな話題がありました。理事の任期を終えられた皆様方、これまで本当にありがとうございました。これからは会員として、また一緒に愛媛助産師会を盛り上げていってください。そしてもう一つ、ひめつう11号で紹介したアドバンス助産師の続報をお伝えします。平成28年度は、愛媛県で新たに43人のアドバンス助産師が認証され、前年度に認証を受けた方と合わせて80名のアドバンス助産師が県内で活躍していることとなります。ひめつうでは、ぜひ皆さまのご活躍の様子など取材させていただきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願いいたします。(編集長 いまむら)

